



豊かな心の

こやし

豊原保育所

「お母さん、これ、何の花が咲くほ」

「マリィゴールドっていう花よ。黄色いきれいな花なんよ。」「お母さん、ぼくも水やりしたいよ」

「その葉っぱにやさしくかけて。そしたら、ずんずん大きくなるからね。」

ふれあい農園では、親子のほほえましい会話が聞かれ、喜んで水やりをしている子どもたちの姿が見られます。

「先生、私たちの畑でとれた第一号のきゅうりです。早速サラダの中に入れてやりませよ。」

と、子どもと一緒に目を輝かせておられたお母さん。翌日「今日のサラダは特別おいし

いねと喜んで食べてくれました」と、話されていました。

今年度は、広い畑の一部を「親子ふれあい農園」と名付け、「楽しみながら野菜・花を育ててみませんか」と働きかけてみました。地区毎の看板もでき、登降園時には、植付物の成長・発見に一喜一憂し、水やり、草取り等、今までにない感動体験があったようです。ふれあい農園が、親子の会話から子ども同士・お母さん同士・又、地区の方とのふれあいの輪へと広がったのも、大きな収穫です。

園でも、子どもたちと、西瓜・とうもろこし・かぼちゃ・芋・黒豆・小豆・枝豆等の苗や種の植え付けをしました。「大きくなってるね」「いっぱいになってね」と、ささやきかけ、収穫に胸

を膨らませる子どもたちでした。秋には、思いもかけないでっかい芋や、かぼちゃに大喜びでした。早速、産地直送無農薬・新鮮野菜を使って、園でも簡単なクッキングをしました。自分たちで世話した野菜を料理する時の目の輝きや意欲的な姿には、目をみはるものがあります。

幼児は、いろいろな体験を通して、日々成長していきま

す。野菜・花に寄せる思い・発見・驚き・親子の心あたたまる会話等は、心を豊かにし人とのかわりや他人への思いやりの心も芽ばえていくものと思います。私たち大人も子どもの育つ心を大切に受けとめ、その心に共感し、見守りながら共に育ち合いたいと思います。



▲ 西瓜の見張り番

町民文芸

俳句

清風句会

(五十音順)

(十二月)

朝寝顔鏡にうつす木の葉髪

上利はな女

サンタさん来し夢見てか子の寝顔

因藤 免史

憂きごとを念入りに梳く木の葉髪

上田 雪子

若やぐも気持うらはら木の葉髪

木村 智子

埒もなき事に執着木の葉髪

齊藤 元

禍福なき月日流れて年暮るる

高崎はま子

クリスマス孫の枕贈り物

仁保 民子

木の葉髪亡父は娘に立ち婚許す

松田 妙子

手作りのケーキ輝くクリスマス

山城テル子

坂の町ピアノ合唱クリスマス

山野タケ子

思う事心の隅に木の葉髪

和田 英二

選者追吟

富田佳津美

短歌

三隅短歌会

(順不同)



空碧き師走の道をからくくと枯葉の音に追はれて歩む

岡 松子

しいの実は葉の上に舞うごとく落ちるときめきひろう還歴われは

小田 恵子

軒下に柿に大根干しつらね峽の吾が家が師走となりぬ

白井 麻子

み冬来て起居しぶれる老母に「あた、かく着よ」と茶羽織届く

平川 育子

星月夜つめたく明けぬ一面の屋根に滴る霜どけの露

石村 栄助

星もなき暗き夜空に月一つ天の涙のしずくごとしも

河野真理子

まな板に青く透けたる鳥賊刺しのひたと動きて生命伝える

村田 敦子

四時間余受くる輸血のどくとくどくだにつたうをわが見つめるる

田中 朝子